

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立明石小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	【4月】 ・「書く」活動の充実について、学習用タブレットの活用とのバランスに課題があった。 【10月】 ・「書くこと」「知識・技能」に課題があった。
算数・数学	【4月】 ・自分の考えを説明したり、発展問題に苦手意識を感じたりする傾向があった。 【10月】 ・解答の理由について詳しく説明することや作図することに課題がある。
社会	【4月】 ・地図、グラフ、年表等、様々な種類の資料に関する具体的な読み取りに課題があった。 【10月】 ・6年「自動車をつくる工業」、5年「くらしをささえる水」、「自然災害からくらしを守る―水害」の正答率が低かった。グラフを読み取り、読み取ったことを表現することに課題がある。
理科	【4月】 ・「生命・地球」領域の理解率が低い傾向があり、視覚的に捉えることが難しい単元（自然教材など）が十分に理解できていなかった。 【10月】 ・「植物・動物」領域の正答率が低い傾向がある。また、記述の問題の正答率が区の平均より大きく下回っており、記述の問題に課題がある。
英語	【4月】 ・単語を答えることはできるが、穴埋めなどで正しい文を完成させることに課題があった。 【10月】 ・アルファベットや簡単な語句や基本的な表現を書くことに課題があった。
体力向上	【4月】 ・マイスクールスポーツである「長なわ」にはどの学級もよく取り組んでいたものの、「短なわ」の取り組みに、学級によって差があった。 ・体力テストにおいて、体の柔らかさや走る力に課題がある学年があった。 【10月】 ・体力テストにおいて、複数の学年が走力・握力・投能力に課題があった。

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

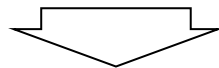
	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【4月】 ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年は8.6ポイント、5年は2.9ポイント、6年は10.6ポイント上回っているので、今年度も平均を下回らないようにする。 ・4年「漢字」「説明文を読み取る」5年「漢字」「言葉の学習」「説明文を読み取る」6年「文章を書く」が平均を下回っているのでポイントを上げる。 【10月】 ・4年は「言葉の特徴や使い方に関すること」「書くこと」が平均を下回っている。5年は「知識・技能」の項目が区の平均より大きく下回っている。6年は「読むこと」「書くこと」が区の平均を下回っているので、書く場面を意図的に計画し、ポイントを上げていけるようにする。	・毎週2回程度の朝読書の時間や図書の時間では、物語または、小説の読書とし、まとまった文章に親しませる。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。 ・「書く」活動を多く入れ、タブレットで文章を作成する活動とともに、紙に文字を書く活動も両立させていく。 ・「説明文を読み取る」では、要約したり文脈理解したりするための時間を確保し、どのように読み進めていけば良いか丁寧に指導する。
算数・数学	【4月】 ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年生は11.7ポイント、5年生が14.3ポイント、6年生が14.2ポイント上回っていたので、下回らないようにする。 ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、どの問題に対しても正答率は全国の平均を10ポイント以上上回るようにする。 【10月】 ・4年、6年は解答に対する説明ができず、誤答または無回答の割合が半数以上となった。また5年は作図の問題が苦手である。授業の中で根拠の説明をする場面を増やしたり、補充問題等を活用し、作図の時間を確保したりすることでポイントを挙げていけるようにする。	・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習の徹底により、個に応じた指導を行っていく。 ・授業開始の3分間、単元に関する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力の定着を試みる。 ・文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表させたり、根拠の説明をノートに記述させたりするなどの指導を徹底する。 ・正しい文具の使い方を徹底し、帯活動等でも作図に慣れさせる課題に取り組む。
社 会	【4月】 ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を5ポイント以上上回るようにする。 【10月】 ・記述問題を授業の中で取り入れるようにし、記述問題の正答率で全国平均を上回るようにする。	・地図、グラフ、年表等、様々な種類の資料に関する具体的な読み取り方や資料を関連付けて読み取れるよう指導する。
理 科	【4月】 ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ・「生命・地球」領域の内容に関する問題の正答率が、全ての内容において区の平均正答率上回るようにする。 【10月】 ・「植物・動物」領域の内容に関する問題の正答率が、全ての内容において区の平均の正答率を上回るようにする。 ・日頃から一問一答の問題ばかりではなく、記述問題を授業の中で取り入れるようにし、記述問題の正答率を全学年区の平均を上回るようにする。	・興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や環境整備を行う。 ・既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートづくりができるようにする。 ・ICTなどを使い、視覚的にわかりやすくする。 ・単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫する。

英 語	【４月】 ・「令和７年度学習力サポートテスト」において、６学年で、全国の平均を10ポイント以上、上回るようにする。 ・「書くこと」に関する全ての内容において、区の平均を上回るようにする。 【１０月】 ・「書くこと」の習熟度を深めるためにやり取りで話す自分の文章を書くことができるようにする。	・単語についてイラストを見て理解するだけでなく、「書く」活動を取り入れて正しい文章を作り、伝えられるように指導を行う。 ・イラストなどを見て、自分で文章を考える機会を増やす。
体力向上	【４月】 ・どの学級でも「短なわ」に親しむことができるようにする。 ・体力テストにおいて、長座体前屈と50m走の得点が全国平均より上回るようにする。 【１０月】 ・体育の授業を通してゲームの際、投げることに重きをおいた練習を入れ、走力、握力、投能力を向上させる。	・短なわ旬間において、朝学習の時間に練習時間を設けることで、各学級で取り組む時間を確保する。 ・体づくり運動で柔軟性を高める運動を意図的に行うようにする。 ・握力や投能力を高める運動を、体育授業内に取り入れる。 ・適切なランニングフォームを指導する。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。 ・授業場面に応じて、ノートとタブレット端末を効果的に使い分けて活用できるようにする。 ・学習内容の確実な定着を図るとともに、学習内容の理解を深め、広げるために、全教科においてタブレット端末や実物投影機等の ICT 機器を積極的に活用し、授業の効率化や知識の定着を図ることができるようにする。

探究的な学びの充実	
取組	・学習導入時の教材の提示方法や発問を工夫し、児童の「知りたい」「考えたい」という思いを引き出す主体的な授業づくりを目指す。 ・授業展開の中で小グループでの話し合いを適宜行い、さらに個の思考が深まる授業づくりを目指す。

読解力の育成	
取組	・毎週２回程度の朝読書の時間を設けたり図書の時間では、物語や小説を中心に読ませたりするなど、まとまった文章に親しませる。 ・年間２回の読書旬間を実施し、親子読書に親しむ機会を設定する。 ・読む活動を通し、各教科において読み解く力、自分の考えを他者に表現する力を育成する。



3 取組結果の検証

	令和７年度の取組の成果	令和７年度の取組の課題と解決策
国 語		

算数・数学		
社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	